

【タイトル】心を繋ぐ歌の力

【エピソードの要約】

「声を合わせることは心合わせること」

この言葉を合言葉に21年歌ってきた今、歌が人の心を救い、感情を解放させ、勇気や元気を与える物だということを確信しています。

アカペラは、お互いの声を注意深く聴き取り、自分の声と相手の声を調和させます。また、楽器の介在がない分、歌い手の心が聴き手にストレートに届き、感情を共有しやすいのです。人の心を繋げ、大きなパワーを生み出す、そんな魅力を皆さんにお伝えします。

【エピソード】

2011年3月11日、東日本大震災によって、私たちがふるさと大使を務める岩手県大船渡市は甚大な被害を受けました。奇しくもその一週間後に開催される予定であった全国椿サミット大船渡大会は中止となり、テーマソングとしてお作りした「camellia〜椿のうた〜」を初めて披露したのは、避難所でした。

苦しい思いをしている方々に、少しでも元気になってほしい。歌を聴いているその瞬間だけでも辛い思いから解放されることができたなら・・・そう強く思う一方、「今」歌は必要なのだろうかという迷いは常に付き纏いました。

そんな中、「震災後は、今は泣いてはいけなと思っていたし、その感情以前に色々なことに追われてずっと泣けませんでした。皆さんの歌を聴いて、初めて泣けました。本当にありがとう」と伝えてくださった方がいらっしゃいました。

この言葉で、私たちは忘れかけていた歌の力を思い出しました。

感情を解放させることがどれだけ大切なことが、そしてそのことが心を救い、前を向くエネルギーになる。

そんな力が歌にはあるということ、改めて教えていただきました。

この出来事をきっかけに、私たちは2012年「XUXUと一緒に歌って大船渡を応援すっぺしプロジェクト」を立ち上げました。現地にはなかなか行けないけれど、何か大船渡の皆さんの役に立ちたいという思いを持った方々の元へ出向き練習会を開催し、同時に、私たちが知っている震災前の大船渡の様子や、震災後の状況、少しずつ変わってゆく街並み、そしてそこに生きる大船渡の皆さんの声を伝えてきました。

そして、大船渡の方々のご縁を作るきっかけとなった「さんりく・大船渡東京タワーさんま祭り」のファイナーレで、大船渡の皆さんへの感謝とエールを込めて大合唱し、延べ700名を超える有志の方々と共に心を届けてきました。

たくさんの想いのこもった歌のエネルギーはとてつもない大きさを会場中を温かい空気で包み込んでいました。

また、日本ツバキ協会の皆さんとは「もう一度大船渡大会の開催を実現させよう！」と、震災の翌年に行われた全国椿サミット萩大会を皮切りに「camellia〜椿のうた〜」をバトンとして各開催地で歌い続けてきました。

震災から10年が経過し、復興も一段落した2022年、待ち望んでいた大船渡大会がいよいよ開催されることになりました。しかし、念願虚しく、今度はコロナ禍により大船渡大会だけではなく、今年の松江大会、一昨年の五島大会と椿サミット自体が三年続けての中止となってしまいました。

その落胆は、参加者の方々も、開催地の方々もとても大きなものでした。

そんな中、私たちの歌を「椿の心をつなぐ絆」と称し、またもや萩市の方々が開催を決定してくださりました。

厳しい冬の寒さに耐え、美しい花を咲かせる椿の花は、花びらを一枚一枚落とすのではなく、花ごと散ります。その姿を「camellia〜椿のうた〜」ではこんなふうに歌っています。

『花びらは手を繋いで輪になって支え合う 春を運ぶその日まで 咲き誇れ椿』

この歌詞が、多くの人々の支えとなり、心を動かし、新たな目標への原動力となっていることを、本当に嬉しく思っています。これまで、大船渡の方々や私たちの絆を深めるだけではなく、さらに多くの方々のご縁をいただきました。

そして、歌うことで私たちもまた、勇気や元気をいただけてきました。

震災から11年、一つの区切りを迎え、新たなスタートを切った今、私たちはこれからもこの歌と共に、どんな困難にも立ち向かう強さを持ち、たくさんの方々へと手を繋ぎ、未来へと歩んで行きたいと思っています。

誰もが心一つになれる「歌の力」を信じて・・・。

【メッセージ】

歌い手も聴き手も、誰もが心一つになれる「歌の力」

お互いの心を解放し、感情を共有し、知らず知らずのうちに元気になれる。

自然体で応援できる歌の魅力を伝えます！